全教職員が関与する策定プロセスのもと作成【第3ステージ冊子p13L27～】

エビデンス欄あり

令和5年度　学校評価の4点セット

〇〇〇立〇〇〇〇〇学校　　校長　〇〇　〇〇

1回目計画（４月〇日）・１回目評価（　月　日）・２回目計画（　月　日）・２回目評価（　月　日）
３回目計画（　月　日）・３回目評価（　月　日）・４回目計画（　月　日）・４回目評価（　月　日）
５回目計画（　月　日）・５回目評価（　月　日）・６回目計画（　月　日）・６回目評価（　月　日）

学校の教育目標：

学校として「育成を目指す資質・能力」：

①学校として「育成を目指す資質・能力」：
学校の教育目標達成に向けて、学校・家庭・地域と**共有できるよう平易な表現等による明確な**資質・能力の設定
【学習指導要領解説　総則編：小p46～／中p47～】
【第3ステージ冊子p13L14～】

計画・評価：　短期の取組指標を検証・改善する毎に更新する。

【生きて働く知識及び技能の習得】
【未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等の育成】
【学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養】
【働き方改革の推進】

学校の教育目標実現のための喫緊の課題を踏まえた**重点目標**	重点目標に係る目指すべき子どもの姿となる**達成指標**		達成指標を達成するまたは近づくための**重点的取組**（※到達像不要）	重点的取組に係る具体的な**取組指標**（※誰が、何を、どれくらいの頻度で）	担当	検証・改善：取組指標に対する**取組状況の確認**（SAB評価／取組状況（エビデンス））	検証・改善：達成指標に対する**達成状況の確認**（SAB評価／達成状況（エビデンス））	検証・改善：**改善方策**
		学校						
		家庭						
		地域						
		学校						
		地域						
		学校						
		家庭						
		地域						

②重点目標：
「学校の教育目標」達成に向けた真に重点的なもの
※資質・能力の三つの柱で設定

③達成指標：
どんな姿になれば重点目標達成と言えるのかを、できる限り数値化し、検証可能な内容で設定する
※1つの重点目標に対し、2項目程度

④重点的取組：
重点目標達成につながる具体的な手立てとなるもの
※各重点目標に対し、3つ程度に絞る

⑤取組指標：
・取組状況を定期的に把握でき、**短期の検証に適した**もの
・「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」を明確にした取組指標の設定
【第3ステージ冊子p13L7～】
【第3ステージ冊子p14L23～】

重点目標の達成が確認・検証できる妥当な達成指標となっているか

重点目標達成につながる重点的取組として整合するものとなっているか

重点的取組が確認・検証できる妥当な取組指標となっているか

⑥働き方改革の推進：
・「勤務実態改善計画」をもとに重点的に取り組むテーマ（「会議・分掌・行事等の見直し」「部活動改革の推進」「ICTを活用した業務改善」等）と関連させるとよい
・成果が実感できる取組とすること

⑦取組状況の確認：
エビデンスをもとにSAB評価し、**「取組指標」に対する取組状況**を簡潔に記載する。

※アンケートによる取組状況の把握については、回答者が明確に自身の取組を判断できるようアンケートの文言を工夫するとよい。

※SAB評価で取組指標によっては実施率100%超が存在しない場合、校内でS評価の判断基準を定めておくことも考えられる。

⑧達成状況の確認：
エビデンスをもとにSAB評価し、**「達成指標」に対して、どのくらい達成できたのか**を表す。

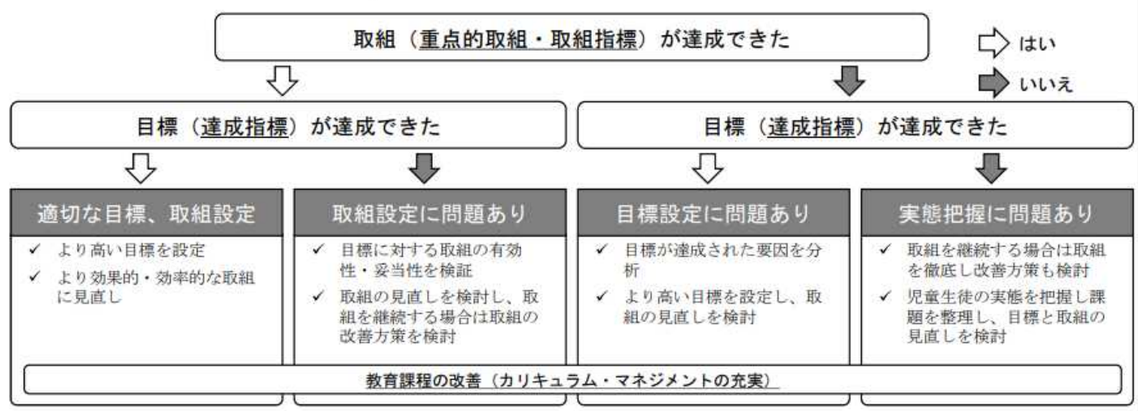
※達成指標の目標が「80%以上」で実績値が「92%」だったとき、達成率は92÷80×100＝115%となるため、数値上の評価はSと判断できる。

※【SAB評価のめやす】
S：100%超
A：80～100%
B：80%未満

⑨改善方策：
⑦、⑧の結果を踏まえた要因分析を行い、以下のような改善方策を検討し、記入する。
〇取組指標の変更・継続
〇重点的取組の深掘り・追加・見直し
〇達成指標の修正　等

☆次の4点セットの計画に反映されるようにすること

検証・改善フロー



POINT☞ 重点的取組・取組指標をより有効かつ妥当な取組へと改善を図るためには、学習指導要領解説、全国学力・学習状況調査の結果・解説等の各種調査、全国的な先進事例、校内研究等のエビデンスや、生徒・保護者等を対象としたアンケート調査、テスト結果等の短期の検証・改善を行う際の視点を整理しておくことが、視点を揃えて効果的・効率的に検証を行う上からも重要